

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	春アンミッコ保育園
施設所在地	練馬区春日町3-31-42
事業者名	株式会社アンミッコ

1. 活動のテーマ

<テーマ①>

【世界】

<テーマの設定理由>

世界の色々な国の人とオンラインで話をし、言葉や表情を通して「人と人は違っても分かり合えることを感じる為「世界とおはなししよう」をテーマにする。

2. 活動スケジュール

1か国に対し2カ月に4回のペースで実施。時間:全10:00~11:00

令和7年度

【4・5月 マレーシア生まれのシムさん】4月16・30日、5月14・28日

【6・7月 スーダン生まれのズズさん】6月11・23日、7月9・23日

【8・9月 イラン生まれのセピデさん】8月13・27日、9月10・24日

【10・11月 アメリカ生まれのコリーさん】10月15・29日、11月12・26日

【12・1月 フィリピン生まれのアラさん】12月10・24日、1月14・28日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

準備物：パソコン、名札、テーブル、その国の事がわかる写真・資料、質問ファイル

環境：室内で、年長組11名が2~4人チームに分かれて静かに話せる場所の設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

タブレットやパソコンを使い、相手の顔がよく見えるようにする。交流の前に地図や地球儀、写真などで「これから話す国」を簡単に紹介する。

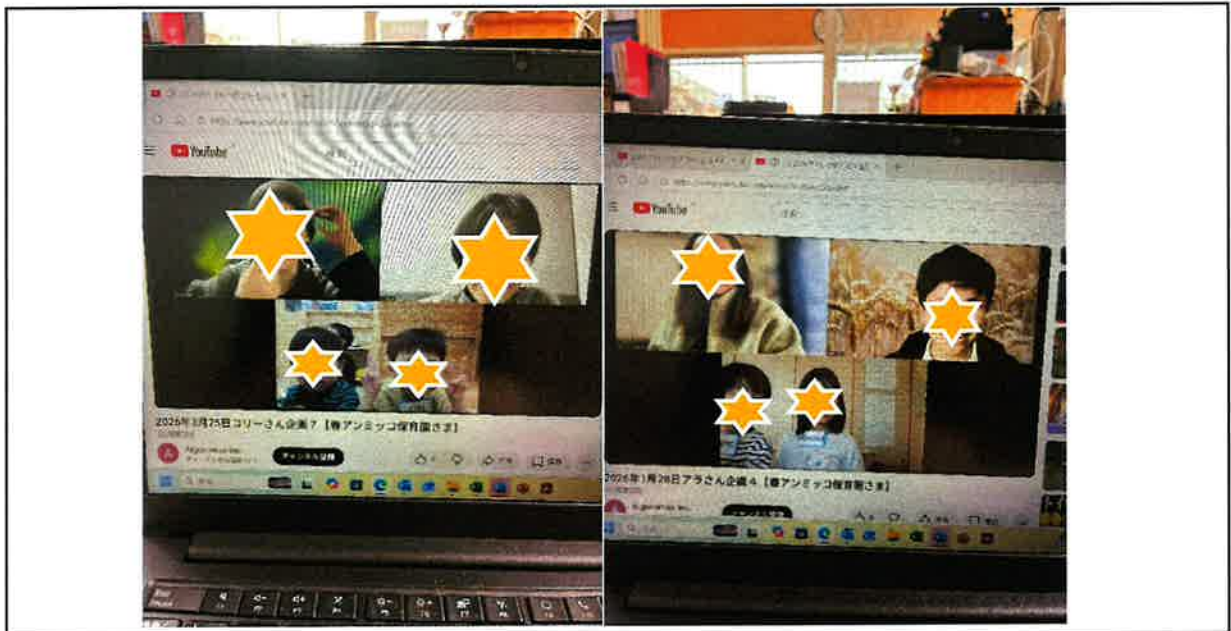
「こんにちは」「ありがとう」などの挨拶から始めて会話をサポートする。保育士が傍で言葉を補い、子どもが伝えたい気持ちを代弁する事もある。家庭で保護者と一緒に聞いてみたい事をファイルにまとめて持参しているのので、その中から各自質問をしたり、日本の事を教えてあげることもある。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

挨拶を交わし「今何しているの?」「好きな食べ物は?」などの質問を試みる。

子ども達は順番に自分の聞きたい事を聞いてみたり、相手の話にうなずいたり会話を楽しむ様子が見られる。子どもがうまく説明できないことや、照れて言えないなどに気づき、代弁をしたり説明を行う。時には、自分達が得意な事を披露することもあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

世界には肌の色や髪の色、目の色など様々な人がいること、食べ物や言葉、文化、住んでいる環境の違いに気づき、世界を身近に感じるようになった。知らない外国の方に対しても親近感を感じ物怖じせずに話せるようになったと感じる。また、自分達にとって当たり前のことがその国にはあるのだろうか?など疑問をもつようになり、相手に聞いたり、自分の事を相手に知ってもらいたいという気持ちが芽生えたり視野が広がったように感じている。

1. 活動のテーマ

<テーマ②>

【表現/造形】

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

造形は形に囚われるのではなく(何を作ったのか、それが何なのか、上手・下手全く関係なく)その時間を自分の思うままに表現するを経験することで、自分自身が承認され自己肯定に繋がる。

2. 活動スケジュール

令和7年度

8月15日(5歳・一部3歳)、9月8日(3歳)、12月23日(4歳)、3月24日(2歳)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子ども自身が主体的に自らが好きな材料や色を選び、思いのままに制作ができる環境を整える。

材料：絵具・発泡スチロール板・筆・ガムテープ・紐類・ハサミ・爪楊枝・セロファン紙
画用紙・ローラー・箱・小瓶など様々な材料を準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子ども達が主体的に自らが好きな材料や色を選び、好きなように制作ができるようにする。子ども自身が「どうなるんだろう?」「何色ができるんだろう?」「これ使ったらどうなるの?」「何ができるかな?」など自分自身に問いかけながら自由に表現する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

講師は特に使い方の説明はせず、大人から口出しされずに好きなように表現ができる場を提供します。大人が説明しなくても子ども自身が周囲の子が使っている様子を見て真似る行動をします。初めは「好きなように描いてもいいんだよ。」の言葉に戸惑いを見せる子もいますが、制作が得意な子どもは空想を膨らませてどんどん作っていき、苦手な子どもも周囲の様子を見て真似て作る姿があります。保育者は危険が無い限り、子どもの観察に徹し見守り、且つ気になった点や子どもについての発見を記録しておきます。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まで自信が無く、絵を画くことに躊躇していた5歳児の子どもが、自由な発想で何枚も絵を描き得意気に見せてくれる姿があった。また、床に座り込み時間が過ぎても、絵具を使い「わあ、世界がひらけた!」という言葉を発する子どもがいた。自分が好きなように自由に表現するという事は、心を開放し周りからも承認されることなのだと感じた。

1. 活動のテーマ

<テーマ③>

【表現/音楽】

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

音の刺激は五感の発達を促進し、「音」によって創造や遊びが広がる。音の出る玩具や楽器を用いたり、歌やリズム遊びから感性や豊かな表現力を育むことからこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～3月

時間：10:00～10:45(2・3歳クラス) 10:45～11:30(4・5歳クラス)

4月14日、5月15日、6月25日、7月16日、8月21日、9月22日、10月27日、11月25日

12月9日、1月20日、2月19日、3月18日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

音の出る玩具：マラカス、カラコルツリー、メダルフォン、ハンドベル、カスタネット、鈴、太鼓、木琴、ピアノなどを準備。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

タオルを使ったリズム遊び、チームに分けて季節の歌を歌う、輪唱する、一緒にマスカラ作りをした後の合奏、外国の珍しい楽器を順番に見る、触る、音を出す、ピアノに合わせたリズム運動など様々な内容となっている。また、わらべ歌を歌いながら輪の中にリズムをとりながらジャンプするなど体を動かすことも行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

個々にタオルを持ち、音楽に合わせて丸めて投げたり、床に置いて海苔巻きに見立てリズムに合わせて撒いてみたりしてリズム遊びを楽しむ。また幾つかの、珍しい外国の楽器に触れ「カエルみたいな音がする。」と鳴らしてみたり、「キラキラできれいな音～」と声を上げる子どももいた。

季節の歌では、冬に「雪やこんこ」をマラカスや鈴を使って演奏したり、輪唱をして全体のハーモニーを楽しみながら感じているようだった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分だけでなく、他児の順番を待つことや歌を聞いてそれに合わせて一緒に歌うなど、自分一人ではなく、みんなで併せる事で出来上がると楽しいと感じられたのではないかと思います。

1. 活動のテーマ

<テーマ④>

【自然】

お泊り保育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

森のあそびを通じて自然を感じ、魚の捌み取りや朝食作りなど、友達と力を合わせる事を体験する。また、自分の荷物の管理や身の回りのことを自分で出来るように頑張るなど、親元を離れ友達と一緒に自然の中で1泊し過ごすことで、たくましい心を育てる。

2. 活動スケジュール

①令和7年9月19・20日

<主な行程>

◎1日目 園集合 バスで出発!

9:00 園集合!

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

森の案内人(群馬県赤城の森で遊びを案内してくれる方々を数名)、魚の捌み取りが出来る環境、キャンプファイヤーが出来る環境、虫取り網、虫取り籠、昼食に豚汁を作る為の材料、宿泊施設、夕食など。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

あかぎ保育の森にて

- ・ 森あそび！→火起こし、おやつ作り
ニジマスのつかみ取り体験

赤城青少年交流の家にて

- ・ キャンプファイヤー、男女別大浴場のお風呂♨
朝食作り(カートンドッグ)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自然の中で散策をしたり、昆虫や沢蟹を捕まえたりする中で、疑問に思ったことやこうなっているんだという事を目で見て知ることができた。

「これなに?」「この虫の足は何本あるの?」「沢蟹は石の下に隠れているんだ。」「森の匂いって木の匂い」など森の散策や沢遊びでの子ども達の言葉である。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

森の案内人の方々に森の遊びを教えてもらいながら、自分で掴み取りした魚を手でさばいて焼いて食べたり、夜には暗い中でキャンプファイヤーをしたり、みんなで一緒のお風呂に入る、自分で衣類を準備して着替える、野外調理で朝食にカートンドッグを作る、などを経験する中で、友達を手伝ってあげたり、これからすることを教えてあげたり、相手を思いやる気持ちや自分でできたという達成感や自信に繋がったのではないかと感じます。